

# 沖縄キリスト教センター ぎのわんセミナーハウス

創立40周年記念礼拝・祝会

～教会と教会、教会と地域をつなぐ 出会いと交流の場～

日時：2026年2月22日（日）

- 第Ⅰ部 記念礼拝 15:00（会堂）
- 第Ⅱ部 タイムカプセル埋設式 16:00（中庭）
- 第Ⅲ部 祝会・交流会 16:30（大会議室）

日本基督教団沖縄教区  
沖縄キリスト教センター

沖縄県宜野湾市志真志1丁目24番7号

電話 (098) 898-4361 E-mail okikyoku501@outlook.jp

[第I部 記念礼拝 15:00]

## 沖縄キリスト教センター創立40周年記念礼拝

司式：具志堅 篤牧師（読谷教会）

奏楽：備瀬 篤子（ぎのわん教会信徒）

前 奏

招 詞：サムエル記上 7章12節

讃美歌：21-419（さあ、共に生きよう）

聖 書：ローマの信徒への手紙8章28節

説 教：「今日まで守られて」 具志堅 篤牧師

祈 禱： 具志堅 篤牧師

讃美歌：聖歌292（きょうまでまもられ）

祈 禱

後 奏

[第II部 タイムカプセル埋設式 16:00]

## タイムカプセル埋設式

進行係：糸洲 のぶ子

（プログラム主事・ぎのわん教会信徒）

讃美歌：21-561（平和を求めて）

埋 設

祈 禱： 望月 智牧師



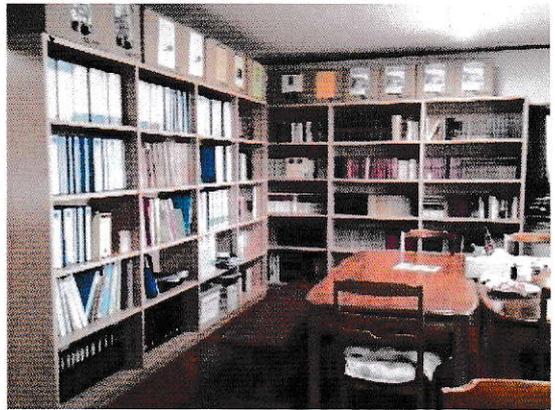
## 沖縄キリスト教センター創立前史の一端

1969年の「日本基督教団と沖縄キリスト教団との合同に関する議定書」(以下合同議定書)を読むと「財務に関する事項」(付属文書IV)がありOKIBとIBCに関わる様々な諸手続きが踏まれていたことがわかる。少しその辺にふれておきたい。

北米八教派(会衆派基督教会、ディサイプルス教会、福音改革派教会、福音同胞教会、メソジスト教会、米国長老派教会、アメリカ改革派教会、カナダ合同教会)の諸教会は、戦後まもなく交わりと援助を開始した。戦後の日本におけるキリスト教事業支援のために、北米八教派の外国伝道部が組織したのがIBC(Interboard Committee on Christian Work in Japan)である。合同によって沖縄キリスト教団から日本基督教団の沖縄教区創立へと流れていた時期、沖縄IBCとして機能していたミッション機構の統合も進んでいた。沖縄IBC(OKIB)が日本IBCに統合されるための作業も進行していた。日本IBCは1973年にJNAC(Japan-North American Commission on Cooperative Mission)に改組される。

沖縄IBC(Okinawa Interboard Committee)、日本IBC関連文書は教区資料室にファイリングされて保管されており、資金の流れのやりとり等が記載されている。

合同議定書の付属文書IV、「財産に関する事項」はそのもろもろの手続きの流れを示している。沖縄キリスト教団よりOKIBに申請していた、①学生センター、②キリスト教学院短大、③八重山農村センター、④宣教師活動費に対する協力資金は日本基督教団が責任を以て適宜申請するとしている。派遣されていた宣教師の協力を得てIBC所有の不動産も整理されていき、首里宣教師館の処分益が沖縄キリスト教センターと沖縄キリスト教学院短大移転費が寄付された。



合同議定書Vはそれまでの議定書、付属文書に記載していなかった事項を整理してある。そのうち沖縄キリスト教学院短大について「沖縄キリスト教団立学校の性格を維持するため『教区立』の名称」を用いることや、合同後「基督教学校教育同盟とIBC関係学校となることを教団は努力するとともに、その財政に関して教団はできるかぎり援助する」としてある。

沖縄キリスト教センターの創立は合同を契機としたIBC資産の整理とも深くかかわっており、丁寧な教区史の整理も待たれる。OKIB まず、用地活用の討議を経て、伝道小委員会の作業が開始され、宜野湾宣教構想委員会へと引き継がれ、具体的企画として教区総会の承認へとこぎつけ、建設準備委員会、運営委員会へと具体化していき、1985年4月7日の起工式となる。

1985年1月に大長弘子を第1回沖縄キリスト教センター運営委員長に選任し、9月にセンター主事に石川清勝就任。11月にセンター内宿泊・会議室部分を「おきなわぎのわんセミナーハウス」と命名する。1986年2月8日に定礎式、25日に献堂式及び祝会が開催された。(文中写真は5階資料室)

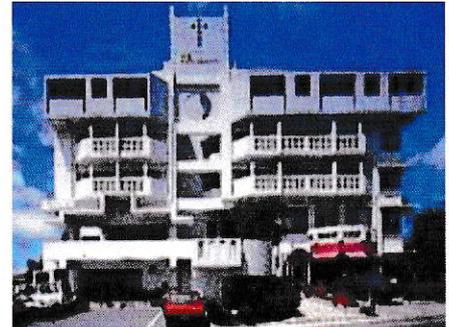


石川清勝主事



## 沖縄キリスト教センター創立からの歩み

- 1986年 創立、大長弘子館長(非常勤)、石川清勝主事。  
1987年 海邦国体選手の指定宿舎に利用される。  
1988年 レストラン委託へ、大長館長、石川主事辞任。  
1989年 エド・フランシス宣教師主事就任、プログラム活動開始。山里勝一館長(週3日勤務)  
1990年 山里勝一館長(常勤)。  
1991年 山里勝一館長辞任。  
1992年 エド・フランシス宣教師館長代行就任。  
1993年 エド・フランシス宣教師館長就任。  
1994年 妹尾正和主事就任。協議会開かれる。志真志伝道所開設。  
1995年 会堂建設。10周年の記念会開催。  
1996年 エド・フランシス宣教師帰国に伴い辞任。  
1997年 妹尾正和館長就任、借入金の一部教区が支払う。  
1998年 ロビー拡張。  
1999年 事務及び会計にパソコン導入。  
2000年 借入金を琉銀から教区へ借り替える。  
2001年 レストランの委託者がなく、直営を始める。創立15周年記念礼拝。  
2002年 レストランの営業を本格的に始める。  
2003年 一般への「黙想室利用」ができないことが判明する。  
2004年 センター運営に関する特別委員会が設置される。  
2005年 一年に限って運営が認められる。妹尾館長辞任  
2006年 当面の間運営。運営委員会規則変更を常置委員会に提出。  
2007年 自己資金内での運営が認められる。  
2008年 機構改革による法人化変更作業始める。教区資料室が5階へ移動。  
2009年 レストラン営業を停止(6月末)。又吉京子館長代行就任。  
2010年 教区総会にてセンター法人化検討委員会が今後について「宗教法人」を答申。  
2011年 教区総会にて「議案9号 沖縄キリスト教センターの今後の方向性に関する件」が審議され「教区立の宗教施設として、継続的な運営を承認する。」が決議される。  
2012年 教区へ長期借入金返済はじめる。15名乗りセンター車購入。  
2013年 首里教会と共同事業「しのめケアハウス」事業が本格化する。東日本大震災支援始まる。  
2014年 外壁塗装工事を教区と折半で負担し実施。センター運営規則変更 委員定数8名になる。  
2015年 エレベーター機械室より発煙。創立30周年記念礼拝祝会・交流会開催。  
2016年 マンスリー利用が増加。教区会計を翁長事務所より引き継ぐ。  
2017年 エレベーター取替え工事を教区と協力して行う。(9,234,000円)  
2018年 マンスリー室やロビーの備品取り替え(ベッドやソファ)。又吉京子館長就任(4年任期)。  
2019年 アパート1室で火災が起こる。  
2020年 新型コロナウイルス感染によるキャンセル増。会議室机・椅子の買い替え。  
2021年 新型コロナ感染拡大で閉館や時短営業、諸プログラム等が中止になる。  
2022年 感染対策(利用定員50%)で運営する。収益事業は落ち込む。多くの献金等で支えられた。感染が収束傾向後は沖縄研修利用団体等が増え始める。経年劣化によるボイラー故障で湯が出ない状態が12日間あった。糸洲のぶ子プログラム主事が就任。  
2024年 コロナの終息に伴い、運営・活動が活発化する。教区事務所・資料室・トイレ・シャワー室・水槽等大型メンテナンスに取り組む。  
2025年 創立40周年を迎える



## 歴代館長・主事

大長弘子(初代館長・非常勤・那覇中央教会信徒)1986年～1988年7月

建築委員会・運営委員長、そして初代館長としてセンターの誕生にかかわってきた。建築中も何度かヘルメットをかぶり現場で進捗状況を見、中原さんや国吉さんなど運営委員の方々とセンター開館に向けて燃えていた。運営のために九州のキリスト教センターを見学したり、建築献金を集めるために婦人会連合の方々に依頼したりしていたことを思い出す。一番つらかったのは、レストランを委託へ切り替えるために職員の解雇を館長として伝えることでしたと、94歳を迎えても当時の様子をしっかりと話された。



石川清勝主事 1986年～1988年 開館と同時に家族で住み込み日々の運営に取り組んでいました。

山里勝一(非常勤・常勤・牧師) 1989年～1992年3月



湿地帯であったため廃土や瓦礫をもらい地ならししたところに建てられたセンターが30年を迎えるのは教区や各委員会の協力があってのことだと思います。建築の段階で下水道が未整備ため浄化槽を一千万円で設置し、廃油ボックスが小さく頻繁にくみ取る等の問題が思い出される。一番の反省は旧学生センターのような喫茶室の予定だったが洋風レストランにしたこと。また、許可をもらっていなかった「宿泊」事業の中止、そしてマンスリー事業と紆余曲折しながらでも今があることは奇跡である。(2015年30周年時の談話。)

ジョン・エド・フランシス(米国メソジスト教会宣教師)1993年～1997年3月

1989年プログラム主事で来沖、1992年館長代行、93年館長に就任。95年に会堂建築に関わり窓に琉球ガラスを取り入れる。諸プログラムを企画実施し、センターの諸活動の基礎が形成された。96年米国での牧会のため辞任。帰国前に10周年記念行事に取り組む。八重山の教会を訪ねるツアーやフィリピンへのワークキャンプ等、教会青年や夜間管理を担う琉球大学の学生たちとの交流も積極的に取り組んだ。その中から神学校に進んだ若者もいる。



妹尾正和(ぎのわん教会信徒)1997年～2005年



1994年主事就任。97年から館長就任。ロビーの拡張工事に取り組む。野外活動等、子どものためのプログラムを始める。長期借入金の返済を銀行から教区へ変更する。レストランの委託が1988年から始めるが3社目の業者が2001年退去、その後は委託業者がなく直営に戻す。2003年一般への「黙想室利用」が出来ないことが判明。センター運営に関する特別委員会が設置される。2005年3月辞任。2022年から野外プログラムの講師としてセンターの活動に奉仕して下っている。

又吉京子(首里教会信徒)2018年5月～現在

1987年9月センター職員としてフロント及びプログラム担当、主に沖縄平和研修セミナーを担う。2003年の宿泊業務の廃止に伴う現場の混乱を乗り越え、2005年～06年山里勝一議長、2007年竹花和成議長等が館長代行時に現場責任者として取り組む。2009年より館長代行の責務を経て、2018年5月に館長就任。2024年度から大型メンテナンスに教区と協力して進める。



糸洲のぶ子プログラム主事(ぎのわん教会信徒)

2022年よりプログラム委員会や諸プログラムの企画実施責任を担う

## 建物の変化



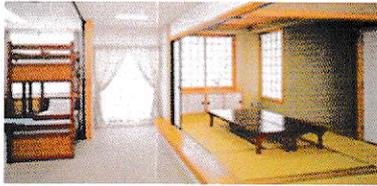
沖縄キリスト教センター建設  
用地（更地）



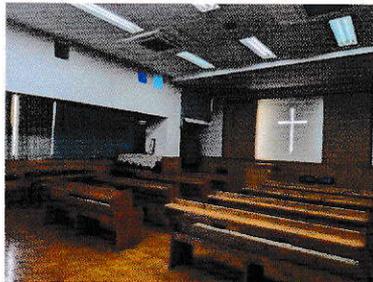
創立当時の沖縄キリスト教セ  
ンター



創立当時の沖縄キリスト教セ  
ンター



センターの二段ベットの部屋  
が会議室へ



中2階ピロティーを会堂に  
変える（1995年）



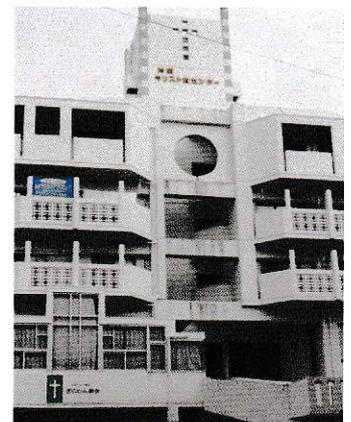
ロビーの拡張（1998年）



レストランからホールへ



宣教師居室から教区事務所・  
資料室へ



ぎのわん教会の新しい  
看板（2025年4月）



ぎのわん教会設立式 牧師就任式（2025年7月）



## プログラム紹介

### ◇ 国内外交流プログラム

#### アジア⇒

- ・台湾 長老教会との交流(2002年 2006年教区交流委員会と共催)
- ・フィリピン ワークキャンプ(1994年 1995年 1996年 1997年 2003年オロンガボにあるブックロードセンターを拠点に活動をする)
- ・タイ 1996年チェンマイにあるマッケンリーリハビリセンターを拠点に村の教会建設に関わる
- ・韓国 1999年、2002年(佐敷教会と共催) 2008年 2011年 2024年
- ・ベトナム 平和の旅 2009年

ドイツ ⇒ドイツの教会訪問 (2000年、2010年、2020年は中止)オーバーアマガウ受難劇

国内 ⇒・大阪への旅 出会いの旅 (1990年) 北海道名寄地区(1992年)

・東日本大震災支援ツアー (2012年～2016年)

県内 ⇒・宮古の教会を訪ねる(2019年)、 交流の旅・八重山の教会へ (1991年)



フィリピンワークキャンプ ブックロードセンター前



ドイツの旅

### ☆ 子どものプログラム



チャレンジクラブキャンプ



クリスマス会に参加する子どもたち



フレンズ英会話の子どもたちとグレイ恵子先生



朝食を作るエコクラブのメンバー



#### 沖縄平和研修プログラム

1991年より実施。琉球・沖縄の歴史、文化に出会い、沖縄戦や現状の軍事基地の実情を歩き見て考えるプログラムを提供。40年間で921団体が利用した。

#### ☆定例プログラム

朝の祈り会／英語で琉球の歴史・文化を学ぶ／聖書琉球語翻訳有志の会／詩編と賛美／歌声カフェ／スペイン語

#### ☆料理教室

#### ☆野外プログラム

大人のための「山がっこう」(1990年より)、地質学の目で歩く「しまぞーり」(2004-2019)、2020年より野外プログラムとして継続している。